

## 【バトテニス】

バドミントン、テニス、バレーボールを混合した富士見市発祥のニュースポーツ。平成18年に富士見市体育指導委員によって考案された。



ルールが簡単で気軽に参加できることから、性別や年齢にかかわらず多くの人を楽しんでおり、今年も大会が開催される(P21参照)。



令和元年度の様子



# 今月のFujimist 松原 ふみえ さん(バトテニス)

問 文化・スポーツ振興課 ☎049-252-7139

「本当は私、運動が苦手なんです」そう語るのは、富士見市発祥のニュースポーツ「バトテニス」のサークル「神無月」に所属し、自身が立ち上げた「暁月」の代表も務め、バトテニスの普及に力を注いできた松原さん。

バトテニスとの出会いは、もともと地域活動に興味があった松原さんが、平成23年度に体育指導委員(現:スポーツ推進委員)に委嘱されたことがきっかけ。当時、ルールなどはすでに先輩委員により作成されていたが、定期的に体験する機会がなく、新たな親睦者の獲得に苦慮していた。

ルールはシンプルそのもの。バドミントンのコートとテニスラケットを使用して、パートナーと協力して2打以内で相手コートに打ち返すだけ。スポンジボールを使用していることにより、球速も出ず、球が当たってけがをすることもない。実力差が出にくく、幅広い層が参加できるという競技スポーツにはない魅力があった。

初めて体験した松原さんは「これならスポーツが苦手な

私にもできる」という感想とともに「高齢者や障がいのある方など、スポーツに親しみにくい方にも楽しんでもらえるのではないか」という想いが生まれた。事実、バトテニスは競技スポーツとは対極にある、誰もが親しめる「生涯スポーツ」として生まれた背景があり、会話を楽しみながら協力してラリーを続けることで喜びや一体感を味わうことができる。その魅力に心を動かされた松原さんは、すぐにサークルの立ち上げに動いた。最初のバトテニスサークル「みんなでバトテニス」が立ち上がってから約8年。少しずつ増えたメンバーたちの協力もあり、今では6つの団体が活動している。

「運動は苦手でしたけど、やっぱり気持ちがいいですね。普及を通していろいろな人との出会いもありました。スポーツを楽しむことで地域の絆づくりと健康増進につなげていければ、こんなにうれしいことはありませんね」と語る力強いそのまなざしは、希望に満ち溢れていた。

市公式  
ホームページ



SNS



【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で



【マチイロ】広報「富士見」をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

### 人口と世帯数(9月1日現在)

人 □…112,303人(前月比 +67人)  
(男 55,252人 女 57,051人)  
世帯数…53,574世帯(前月比 +58世帯)



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。